



第 006 号 2020 年 6 月 21 日 岩田宜子

化学をもっと勉強しておけばよかった

新型のウィルスについて、化学の知見で解明しようという話ではありません。Stay at Home によってとんでもないことになってしまったという話です。それは、食事を作らなければならないという事態になったことです。

私は慶應義塾大学経済学部を卒業してから、ずっと働いています。今は、ガバナンスと IR という専門分野でどうにか頑張っています。その間、結婚、出産、離婚というプライベートの変化はありましたが、一貫してタッチしていなかったことが、「料理をする」ということです。

さて、この Stay at Home、当初は馴染みのお店のテイクアウトを続けていましたが、いよいよ自分で料理をすることを決心しました。最近の世の中、ネットでなんでもわかります。お料理も、動画を通して、「おお、こうすればあのレストランでいただくお料理が作れるのか」、「ああ、あの料理はこうして作られていたのか」と、とにかく驚くばかり。

しかし、分かったことは、料理には化学の知識が必要であるということ。見よう見まねで作っても、不味いのです。その原因を考えました。それは、私は調味料の入れる順番の化学的根拠が、わからない、油の温度がどう素材に影響するのもわからん、電子レンジにいれていいものと悪いものもどのように化学的に判断したらよいかわからないのです。そのため何を作っても、不味いのはと。それで、もっと化学を勉強するのだったと後悔する毎日に。いやはや。

岩田宜子 (ジェイ・ユース・アイアール株式会社代表取締役) 2020 年 6 月 20 日